

## ひろば大代

NO.184

大代公民館



## 第十回

東京石見高山会総会に出席して

大代高山会々長 渡 吉正

十一月六日(日)東京は朝から雨。

正午過ぎ、東京南青山のホテル『島

根イン青山』の二階ホールで「第十回

東京石見高山会総会」が開催された。

今回は十回という節目の記念すべき

総会である。

総会は、東京石見高山会々長の田中

憲経氏の挨拶に始まり、祝辞は大田市

助役の椋木氏、そして大代高山会々長

の私と関西高山会副会長曾根氏がそれ

ぞれお祝いの言葉を述べた。

次いで第十回の記念として大代公民

館へ金一封を頂き、感謝状は元公民館

長の橋本昭二氏、前館長の田辺孝氏、

そして前自治会連合会々長の永井吉一

氏へそれぞれ金一封を添えられて贈呈

された。

レセプションに入り、市原市議会議

員と高村貢自治会連合会長の挨拶があ

り、東京石見高山会の初代会長渡俊則

氏の乾杯の音頭で、この日のメインイ

ベント「大江高山神楽」が始まった。

中でも一番の演し物は四匹の大蛇が乱

舞し蛇頭から火煙を噴出する大蛇に立

ち向かうスサノオの雄々しい舞であつ

た。ホールは煙硝の臭と煙幕が充満し

て、観客は皆故郷の祭りを彷彿させる

里神楽にじっと酔いしれていた。

私はビールやジュースを注いで回り

五十年振りに会えた先輩、朋輩、後輩

諸氏と談笑に花が咲き、時間が過ぎた

ことが分からなかった。

四時過ぎ、先輩重元良夫氏の一本締

めで幕を閉じた。

この総会へは関西高山会から曾根、

田辺両副会長と中本事務局長の面々が

出席されていて、来年大代高山会の十

周年には必ず帰郷するとの声を頂き、

力強い友情に感謝して握手で別れた。

それにしても東京石見高山会の前事

務局長の米原光義氏が突然の病で姿が

見えなかったことは大変残念であった

古里の神仏かけて早い全快をお祈りす

る。

夕食会は五時過ぎにバスに乗って横

浜市緑区の割烹『米宗』へ赴いた。

玄関先には二つの「篝火」が設らえて

あり、階上入口には戦国時代の「具足

」が、大広間には「金屏風」が張りめ

ぐらされ、特に着物姿の女将の剣舞「

白虎隊」はなかなかの圧巻であった。

大代から会席に望んだ者は二十二名

また中高生ら八人は東京石見高山会の

肝入りで「東京デイズニールランド」へ

案内された。我々はこの心のこもった

歓待を終生忘れないだろう。

翌朝七時、ホテルで全員朝食を頂き

八時過ぎバス便で二十八人(責任者市

原仁郎氏)航空便は私と今田不三夫氏

の二人で帰途に着いた。

この十回総会への出席は今までにな

い大人数の三十五名が繰り込み、東京

石見高山会の田中会長を始め、松本健

一事務局長他役員の方々の心温まるお

取り計らいに対して深甚なる感謝を申

し上げます。

神楽団の皆様、ご出席の皆様二千キ

ロ余りの往復バスの旅大変お疲れさま

でした。

## 同和教育研修会から

大代中学校教頭 嘉儀宏一

映画「明日への彩り」の鑑賞とフォーラム―学校と社会同和教育の合同研修会は次々と活発な意見がなされ、人権の尊さを身近なものとして考えさせる充実した会でした。この映画の主人公の青年の人権感覚のすばらしさに心を打たれ、また生徒を教え育てる立場の私にとって中学生もすぐ青春時代、果たして社会を担って立つ主体的な青年となるか、日頃の教育の大切さを反省させられる映画でもありました。

「明るく幸せに生きたい。住み良い町にしたい。」という願いは人間誰でもが持っています。しかし人生で最も幸せを感じる誕生日、学校生活、就職男女交際、結婚、出産等々「幸せに生きたい」という願いが足元からくずされるのが今の社会や職場に家庭にまだまだ残っています。

不当な力によって奪い、傷つけ、人をいやしめ、辱しめる。これが差別行為ですが気づきにくいのが自分自身です。人権尊重の精神の欠如や強度な自

分本意の考えから、また偏見や噂、陰口から不幸な人を無視したり、人の心を傷つけたりの差別行為に気づかぬことが身近に多く残っています。

さて学校同和教育は市内多くの学校で研究発表会もあり、私達も他校のすばらしい研究や生徒の学習の様子を知り本校でも大いに役立てているところです。

人権について正しく学習し、明るい社会を築くためのより主体的な生き方が出来る生徒を願って努力しています。

## 大江高山

草刈り登山を終えて

本郷 横 明完



私は自治会長という役目柄で大江高山へ草刈り登山をした。役目とは言うものの「高山へ草刈りに行かにゃいけない。自治会長なんてろくなもんじやあない」と思った。私は歳から言ってもまだ遊びたい盛りなのだ。

「せっかくの日曜日なのに冗談じやない」と杉林、雑木林の中を草刈り機のエンジンを吹かしながら登った。十一

時が過ぎた。腹が減った。標識に「あと一キロ頑張れ」と書いてある。よい腹が減った。そう思いながら登って行くうちにバツと空が明るくなった。雑木林を出たのだ。

そして今まで思っていたことがきれいに忘れるようなすばらしい景色があった。日本海がそこにある。入り組んだ海岸、青い海がそこにある。

絵にも書けない美しさとはこういうのを言うのだろう。三瓶の頂上から見るそれとは比べ物にならない。

この感激と感動は初めて女房に出合った時のようである。女房と初めて合った時はさすがに声は出さなかったがこの景色に合った時は自然と「うわあ、すげえ」と大きな声が出た。大げさなようだが本当にそうなのだ。

まだこの景色を体験していない人は是非高山へ登るべきである。そうしないと一生後悔することになるだろう。

そして飯谷側の頂上へついてまたびっくり！日御碕の灯台が見えた。出雲ドームが見えた。どうも女の人は花よりダンゴのようで一生涯懸命、栗の実を拾っている。私達男はそのすばらしい

景色を見ながら長谷君の背中で充分あっためられたビールが、

「うまいんだなこれが。」

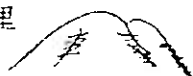
このビールのうまさはこの事業に参加した者でないといわれないだろう。

大代町の皆さん、私と同じ思いをしたいのなら来年は是非一緒に登山をしましょう。

でも帰り道は足がガクガクでっせ。

## 大江高山登山紀行

原田萬里



十月十五日明けきらぬ朝、星が瞬き冷やかな気流が肌を撫でる。山頂からの霧の海の風景を想像して、大江高山登山を思い立つ。

八時前家を出る、祖式はライトをつける程に霧が深い、九時山田側から登山を開始する。

昼なお暗いという表現にピッタリの杉林にはいる。少年の頃下山した山田側のイメージとは随分違った道である。一確か山を降りると直ぐ野原に出て、

その真ん中の道を真っ直ぐに走ったように記憶している。」

林を抜ける頃から道は急になり、肌が汗ばむ。一步一步足を運ぶその道は鍬や木の小枝で整えられ、快い登山ができる。登る道々黄色と青色のテープが木や岩に付けてあり無言の道しるべとなっている。孤独な登山者へ単純な記号がこんなに役立つとは、とか、家にいる妻は昨日初めて年金をもらう歳になったのか、このリュックの中には妻の急ごしらえの「むすび」が入っているのだな、などととりとめのない事を考えながら歩く。

快い疲労を感じた頃、小休止の看板に出会う。ここは大家の町並みが見えるところ、大家の歴史や祭り事が紹介されている。

山田側の頂点に達し、海を見る。仁摩町琴ヶ浜、あそこは私の最後の職場である。飛行雲を引きながら飛ぶ銀色の飛行機がはっきりと確認できる。

山の稜線を吹き抜ける風に当りながら歩くと、いつしか汗も乾き心地好い足下には夥しい栗のいが、ここらには猿もいないのか栗が転がっている。

こんな高地で子蛙が飛び出したのも愛嬌がある。

大江高山の誕生を紹介した小話が書いてある小休止の看板に出会う。そこからは私の生家が鳥瞰できて感激した。あと一キロ、あと百メートルの立て札に励まされ、十一時最高峰の飯谷側の頂上に立つ。秋あかねが群れ飛ぶ、不思議な世界と静寂。

山頂のポストを開けノートを手にして見る。十月二日大勢の村人が汗を流して道刈りをしている。私はその時麓の生家で稲刈りをしていたので。

霧の海はすでに消え、ガスがかかり眺望はきかないが、山頂は奇麗に切り払われている。

この静寂を一人占めしながらビールを飲む。息子がヒマラヤの七千メートル級の山に挑んだ気概に共感していると、一組の夫婦が登ってきた。

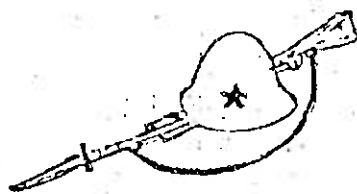
東出雪町の陶芸家である、おやつを交換しながら話題はひろがる。見も知らぬ人と仲間になれる。山は不思議な魅惑を有する。私は持参した大江山の湧水を二人に奨めた。

下山の途中「大砲岩」を尋ねたが道

が「屏風岩」で途切れていたのひきかえした。山辺神社は神々しく、幼き日の想いも重なり、手を合わせ長い祈りを捧げた。

足は自然と生家の方を向いて歩いている。生家では姉と義姉がゴム手袋をして銀杏の実を洗っていた。亡き母は素手で銀杏を洗い、手は銀杏の灰汁で赤く染まっていたのを思い出しながら家路へと車を走らせた。

戦争体験記



「東京上空」

本郷 松井 幸

昭和十六年三月、第九国境守備隊歩兵隊第三中隊へ入隊、広島県宇品港を

海路出発。三日後北朝鮮清津港上陸、ソ満国境五家子到着。ポセツト軍港に一万五千米の地点、数年前事件のあった張鼓峯の姿が見え、何か不気味なものを感した。

歩兵四個中隊、砲兵二個中隊、工兵一個中隊、通信班、特殊隊などで編成一個中隊三六〇名と言う戦時態勢であった。奇しくもこの年十二月八日、大東亜戦争が始まり、毎日が射撃、砲撃銃剣術、戦闘教練などが主として行われた。

昭和十八年の六月戦局の推移により航空部隊要員として、奉天市北陵に在る関東軍無線教育隊に派遣され五か月後、東京都北多摩郡調布に在る飛行第二百四十四戦隊に配属された。

三年ぶりに内地に勤務替えになった事は大変嬉しい事だったが……。

当時の東京はもう戦時態勢一色で、飛行場内は一日中プロペラの轟音と、離着陸する戦闘機の風と砂塵の生活のなかで昼夜の別なく訓練が行われていた。

戦隊は三式戦闘機（飛騨）が約四十機（特攻隊八機を含む）飛行場西側に

は五三戦隊二式戦闘機（鐘馗、屠竜）三十機、百式指令部偵察機などが同居駐留していた。

何れも帝都上空に侵入する敵機に備えられたもので翌二十年の二月には四式戦（疾風）五月には五式戦闘機（キ一六七）へと航空戦と併行して次々と新しい機種でスピードのあるものに変わって行き、操縦者達も毎日の訓練が大変であった。

時によっては海軍機（雷電、紫電改）などが戦斗中の不時着などで見られた。昭和十九年十一月から東京上空にB29の来襲が始まり、昼夜を問わず爆弾や焼夷弾が投下され、その猛烈な威力は一夜にして広範な地域が焼野ケ原と化した。

B29は巨大な空の要塞とも言われ、一度の来襲により要する燃料はドラム缶（大）三十本を必要とするとか、勿論多数の弾薬を搭載しその守備力も戦闘機の優に6機分に匹敵するとか、従って大編隊などには容易に近寄る事は不可能、然も八千米以上の高度になると成層圏飛行に乗り、時速六百五十K以上となり一度交戦から離脱すると容

易に追跡する事が出来なくなる。

然し友軍機も果敢に迎撃した。中でも特攻隊長の篠宮中尉はB 29の尾翼に体当たり攻撃により撃墜し自らは片翼で生還している。

続いて中野軍曹、板垣軍曹なども調布上空市民の目前で体当たりにより敵機を撃墜し自らは落下傘降下により傷つきながらも生還している。

昭和二十年一月には丹下充之小尉（戦死）高山正一小尉（生還）小林大尉（生還）などが続いて体当たり攻撃により撃墜し夫々市民の高い賞讃を得ていた。又、五三戦隊も劣らず戦っていた。特に夜間戦斗に馴れて復座を利用した機関砲によりサーチライトに照らされた敵機のごく近くに接近し一晩に3機を撃墜したベテランもいたが、その後電探の改良によって近づく事は出来なくなり我方の被害のみが多くなって来た様だ。

この頃から沖縄の戦斗も激化して船舶の輸送が潜水艦に脅かされる様になって来た。この援護の為戦隊の主力が鹿児島県南端の知覧・万生飛行場に転進し、九州南部からの船団掩護に当っ

た。

然し戦局は重大な分かれ目が訪れた四月に至り、硫黄島が陥落し之を基地として小型機の来襲が多くなって来た艦載機（F 4 F・F 6 F、コルセア、SB 2 C）にかえて陸軍の優秀機P 5 1等がB 29の援護をし乍ら百機を越える大群で制空権は勿論、飛行場など奇襲をかけて成果を挙げられた。そして戦局も可成り傾いた様だ。

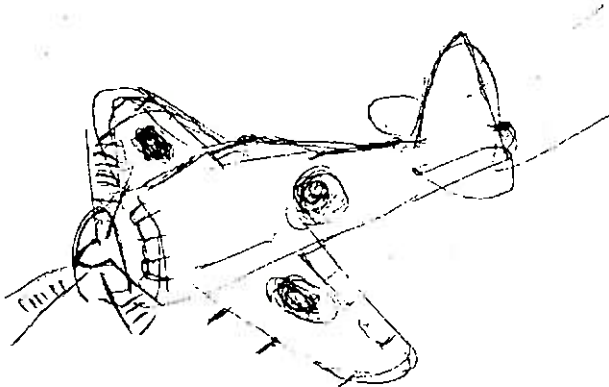
この本土攻撃作戦に当って敵は海軍の機動部隊を以て関東沿岸飛行場等を撤退砲撃した。艦砲射撃の効果は特に夜間、実に強大であった。

更に六月に入り京阪神、愛知地方の航空機産業（特にエンジン製作工場）を徹底して攻撃をかけた様だ。

この為侵入する敵機の迎撃に参加の為滋賀県八日市飛行場に転進した。特に緒戦で敵十三機（F 4 F）の侵入に当り全機を出動させて八日市上空に於て素早く捉え五段、六段攻撃により全機を撃墜し感状に浴した事もあった。然し戦局は硫黄島陥落を機に大きく傾いて行った様である。

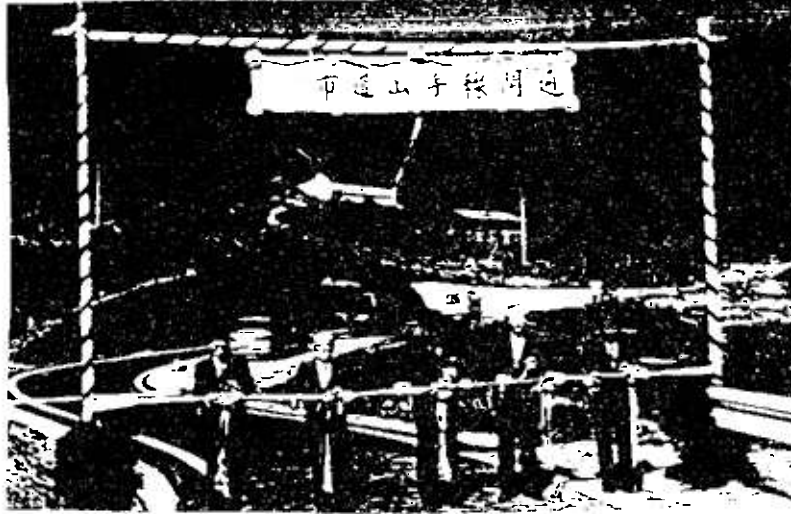
遂に八月十五日終戦の詔勅が下った

事は御承知の通りであるが、何と後日航空機の武装解除が始まり日本軍全機練習機を含めてわずかの二〇〇〇機と聞いている。敗戦は圧倒的物量の差と技術の差をまざまざと見せつけられるに至ったのである。



市道・四日市山手線と  
防火水槽の竣工式挙行さる！

四日市 鈺 昭人



このたび四日市地区民が十有余年の長い歳月にわたり、念願しておりました市道四日市山手線が市長始め、市当局並びに地区民の絶大なご支援とご協

力によりまして、めでたく十月二十七日に防火水槽の完成と合わせ竣工式を行いました。市長様（代理 椋木助役）関係者多数のご臨席を賜り、自治会も全戸出席し五色のテープカットから始まり、先導車に続いて次々八台の車が式場へ、消防放水試験も大成功、大拍手が湧きあがりました。

市長様からの祝辞、続いて各種団長よりのお祝いの言葉を頂いて、喜びと感激のうちに竣工式を終える事が出来まして心からお礼申し上げます。

東西に県道川上線へ三百メートルの所から、市道四日市線から新道山手線のこの中へ四日市地区がスッポリ包まれます。

山手線から浄土寺が正面にそして大家の町並みが眺められ、遠くは三瓶山の秀峰が遠望出来、近くは大江高山の雄々しい姿を望み、秋たけなわの今、すっかり紅葉に彩られています。

このような恵まれた景観を町民の皆様、一度ゆっくり歩いて見てはいかがでしょうか。



\*\*\* 十一月の行事予定

- ◆ 6日（日）東京石見高山会総会
- ◆ 10日（木）ダイヤゾーンボール教室
- ◆ 13日（日）福祉弁当
- ◆ 17日（木）ダイヤゾーンボール教室
- ◆ 20日（日）大代町文化祭

午前九時～午後三時まで  
ご家族そろってお出かけ下さい。

おしらせ

◎大代公民館から

東京石見高山会様寄り

東京都 渡 弘文様より

それぞれ金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

◎社協大代支部より

椿 田平富士夫様より

金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

